

中合福島店跡 いちい 来月15日開店

県内でスーパーを展開する「いちい」（本社・福島市）が、八月末に閉店した福島市の百貨店「中合福島店」一階の商業スペースで運営する「いちい街なか店」のオープン日が十二月十五日に決まった。県内各地の名産品を販売するほか、中合が企画し、好評を得ていた北海道などの物産展を開催する。中合閉店から二カ月半を経て、県都の玄関口ににぎわいが戻る。

中合が入居していた辰口屋ビルは福島駅前再開発事業により二〇二二（令和四）年春に取り壊しが始まる予

定。「街なか店」は二〇二二年二月二十八日まで期間限定での出店となる。

開店日から「福島物産展」を開催し、市内外の名産品を販売する。年明けには九州や京都の物産展を予定している。中合の退職者を数人雇用しており、物産展開催に当たって、これまで築き上げてきた人脈を生かして

もう一つ。中合閉店以降、新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、にぎわいが失われつつある中心市街地での明るい話題を市民は歓迎している。福島市の主婦吉村幸子さん（六十）は、買い物でよく中

合を訪れていたが、閉店後は駅前足運ぶ機会が減ったという。「（中合の）シャッターが閉まったままでは寂しい。少しでも駅前が明るくなれば」と期待した。

いちい街なか店の営業時間は午前十時から午後七時まで。十二月十五〜二十日まで福島物産展、同二十三〜二十八日まで北海道物産展を開催する。

市が二階に開設する街なか交流館が同時オープンする。地元出身の作曲家古関裕而さんの

いちい街なか店 物産展など次々開催 2階には市の交流スペース

ゆかりの品の展示や若者らが集い、交流できる場として活用する。交流スペースを一般に貸し出す。使用料（資料）は無料だが、光熱水費は必要。問い合わせは福島まちづくりセンター 電話024(522)4841へ。

県都玄関口に活気を

中合福島店が入っていた辰口屋ビルを見上げる伊藤社長。いちい開店ににぎわい創出を願う13日



伊藤 信弘社長 懸ける思い

「創業の地である福島駅前。自宅は中合近くであり、け了承を得た。前ににぎわいを取り戻した学校が終わると両親が働くい」。いちいの伊藤信弘社長（六十）は「いちい街なか店」のような場所。シャッター体などと連携を深め「オー」が閉じた辰口屋ビルを見、ル福島」の品ぞろえを目指

創業の地で地域貢献

同社は一八九二（明治二十五年）四月、中合近くで伊藤さんの曾祖父の清三郎さんが海産物商として創業した。伊藤商店として中合に出店し、海産物を販売し

「物産展などを通じて非日常の空間を提供したい。短い期間だが、気軽に買物を楽しんでほしい」と話